



【ペレット堆肥】

【大麦若葉実績】

～大麦若葉～

儀数/10a 面積/a 散布時間 合計作業時間 作業時期

收穫時期 11月～2月26日

大麦若葉用 5 2,000 30分 100時間 10月

製品加工 懶春日園川路製茶

液肥【エコバランス+サカタ液肥 混合】



R5部会数量 357,500 kg

散布量/2 面積 散布時間 合計作業時間 作業時期

R5部会面積 2,000 a

大麦若葉用 0.6 2,000 3分 120 10時間 10月

R5部会単収 1787.5 kg

従来まで大麦若葉施肥 数量

R4春日園川路製茶 687562 kg  
大麦生産量

R5春日園川路製茶 4000 a  
大麦買葉面積

バラ堆肥 1t

参考 買葉平均単収 1718.905

オール14 2袋/20kg

【結果】  
従来までの化学肥料を用いた栽培体系と同等それ以上の收穫量となったことから、天候にも左右されるものの本実証の効果は認めれる。  
また、化学肥料を廃止し、ペレット堆肥と液肥散布に切り替えたことによる保肥力や地力が向上したことにより收穫量としては、昨年の平均收穫量よりうわまったことが想定される。  
化学肥料の減少 100%

【労力の削減】

堆肥散布の取組での作業時間の減少

バラ堆肥 → 250時間 × 2名 = 500時間

ペレット堆肥 → 100時間 × 2名 = 100時間

△300時間の削減①

液肥散布 → 10時間 × 2名 = 20時間

20時間の増加 ②

①+② △280時間の削減

【ペレット堆肥+施肥】		～甘藷～			
俵数/10a	面積/a	散布時間 10a	合計/表	合計作業時間	作業時期
甘藷用	3,000	30分	3,000	150時間	2月～3月
施肥(からいも配合)	3,000	20分	600	100時間	2月～3月
液肥【エコバランス+サカタ液肥 混合】					
散布量/ℓ	面積	散布時間 10a	合計/ℓ	合計作業時間	作業時期
甘藷用	3,000	3分	180	15時間	2月～3月
従来まで甘藷施肥施肥	数量				
バラ堆肥	1t				
からいも配合	4俵/20kg				

【結果】  
従来と比較して、化学肥料を50%削減した施肥となった。甘藷についてはR6.3月より定植を行い、8月～の収穫となる。収穫量を前年度部会での耕作者と比較して実績数値を10月末より出していききたい。

【労力の削減】

～甘藷～

堆肥散布の取組での作業時間の減少

バラ堆肥	→	250時間	×	2名	=	500時間
ペレット堆肥	→	250時間	×	1名	=	250時間
						△250時間の削減
液肥散布	→	25時間	×	2名	=	50時間
						50時間の増加
					合計	△200時間